

第6回 国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会 議事録

日時：令和5年6月20日（月） 14:00～15:30

場所：仙台市役所2階 第6委員会室

○司会

ただいまから第6回国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会を開催いたします。

私は、本日の進行を務めます文化観光局青葉山エリア複合施設整備室の中井でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認でございます。

本日の資料は、座席表、本日の次第、そして資料1から4となっております。

なお、本日は、梶委員、今野委員、佐藤委員、港委員、渡邊委員から欠席のご連絡をいただいております。

会の成立に関してご報告いたします。

本日は、5名の委員にご出席いただいておりますことから、要綱第4条第2項に規定する定足数を満たしていることをご報告申し上げます。

次に、本懇話会の運営について確認をさせていただきます。

本日の議事録についてですが、事務局が作成した議事録の案について、川内委員、本江委員のお二人にご確認、ご署名をいただきたいと思います。両委員、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○司会

ありがとうございます。

その他運営に関することで、皆様から何かご意見はございますでしょうか。

（発言の声なし）

○司会

それでは、ただいまより本日の議事に入ります。

これからの進行につきましては、市長にお願いいたします。

○郡市長

いよいよ今日が最終回の懇話会となりました。どうぞ委員の皆様方、よろしくお願いいたします。申し上げます。

本日は、国際センター駅北地区複合施設基本構想の最終案についてご議論をいただくことになっております。

初めに、前回、第5回の懇話会でも大変貴重なご意見を出していただきました。それ

を振り返らせていただきます。

前回の懇話会では、基本構想の中間案をお示しいたしまして、それに関して皆様から数多くのご意見を賜ったところがございます。当日の主なご意見につきましては、お手元の資料1にまとめさせていただいておりますので、どうぞ後ほどご高覧いただければと思います。

さて、前回の懇話会からこれまでの間、本市において実施をいたしました市民意見の聞き取り、関係者等へのヒアリング状況及び仙台市文化芸術推進基本計画の検討状況について、まずは担当からご説明を申し上げます。

○事務局（佐々木青葉山エリア複合施設整備室長）

それでは、資料2-1をご覧ください。

市民意見につきましては、前回の懇話会后、5月31日までパブリックコメントを実施したところがございます。詳細につきましては後ほどご説明をいたします。

次に、関係者ヒアリングでございますが、市内の演劇関係者へヒアリングを実施いたしました。実際に市内で活動されている方々に、複合施設に求めることなどについてご意見を伺ったところがございます。主なご意見につきましては記載のとおりでございます。メモリアルとの融合を考えたご意見や、今回整備いたします小ホールに期待するご意見などをいただいたところがございます。

資料2-1は以上でございます。

続きまして、資料2-2をご覧ください。

こちらは（仮称）仙台市文化芸術推進基本計画の検討状況についてでございます。

現在検討を進めております本計画の策定に当たりましては、有識者の方々から広くご意見を伺うため、仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会を設置しておりまして、その第1回懇話会を3月28日に開催しております。当日は、事務局より本市のこれまでの文化芸術振興に係る取り組みや文化芸術を取り巻く状況などについてご説明を申し上げ、委員の方々から様々なご意見をいただいた中でございますけれども、複合施設に関連するご意見として、ご覧のようなご意見をいただいたところがございます。

2にございますとおり、第2回懇話会を7月5日に開催する予定としておりまして、3の想定スケジュールにございますとおり、11月に中間案の策定及びパブリックコメントの実施などを経まして、今年度末の令和6年3月に計画を策定する予定としております。

次に、資料2-3をご覧ください。

この計画の策定に向けた調査の一環といたしまして、昨年度、文化芸術に関する市民意識調査を実施いたしました。その中で複合施設に関する質問項目がございましたので、該当部分に係る回答結果をご紹介します。

当意識調査の概要は資料1ページ目のとおりでございます。無作為抽出いたしました3,000人の仙台市民を対象に、郵送で調査票を配付し、924人の方から回答を得ているところがございます。

資料2ページ目、問16ですけれども、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設の建設予定があることを知っているかを伺った質問ですが、「知っている」が

43.2%、「知らない」が55%という結果でございました。3ページ目には、属性別の回答結果、クロス集計したものを記載しておりますけれども、年齢層が上がるにつれて認知度が高くなっており、50歳以上では「知っている」が「知らない」を上回っているところでございます。

続きまして、資料5ページ目、問17になりますけれども、こちらは新しい音楽ホールに期待することを複数回答可で伺ったものでございまして、「誰もが気軽に訪れることのできる施設になること」の回答率が最も高くなっております。6ページ目は属性別の回答結果ですが、年齢層によって大きな差は見られなかったところでございます。

なお、当意識調査の回答結果全体につきましては、速報版を3月28日の第1回懇話会でお示ししてございまして、市のホームページにも掲載をしております。また、7月5日の第2回懇話会で詳細な報告書をお示しする予定でございます。

資料の説明は以上でございます。

○郡市長

アンケート、パブリックコメント等々、また、ヒアリングの状況などをご説明申し上げます。

広報について、若い世代にどういうふうに訴求できるのかという課題があるなということも認識をしたところでございましたけれども、今の説明に対して委員の皆様方からご意見あるいはご質問はございますでしょうか。

(発言の声なし)

○郡市長

それでは、意見交換に入ってまいりたいと存じます。

前回の懇話会では、基本構想中間案に皆様方から様々ご意見をお寄せいただきました。そのご議論と、さらに本市で実施いたしました市民意見募集の結果などを踏まえまして、記載の見直しを行い、基本構想の最終案を取りまとめているところでございます。この最終案についてご議論いただきますが、まずは担当から資料についてご説明を申し上げます。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

それでは、資料3-1をご覧ください。

前回の懇話会における中間案の記載に関する各委員からのご意見並びにその対応についてでございます。対応における所要の修正につきましては、最終案に反映してございますので、後ほど資料4-2にて詳細をご説明いたします。

次に、資料3-2をご覧ください。

中間案へのパブリックコメントの実施結果です。実施期間は4月24日から5月31日まで実施したところでございます。

2、結果でございますけれども、79名の方から計130件のご意見を頂戴いたしました。その内訳は以下のとおりです。

ここで全てのご意見をご紹介することはできませんが、次の資料3-2別紙にて概略をご説明申し上げます。

○事務局（佐々木青葉山エリア複合施設整備室長）

それでは、資料3-2別紙に基づきまして、まず複合施設全体、それから音楽ホールに関するご意見と、それに対する本市の考えを幾つかご紹介させていただきます。

まず、5ページをお開きいただきまして、7番のご意見でございます。

こちらのご意見は、施設の基本的な考え方でお示しいたしました「いつ来ても居場所があり、開かれた施設」「全ての人ができる施設」ということにつきまして、「確かに」と思える施設にさせていただきたい。メディアテークや定禅寺通などは、ふらっと立ち寄っても小休憩が取れる雰囲気があると。そうした空間があるのであれば国際センター駅北側は最適ではないかというご意見でございます。

こちらにつきましては、基本理念や施設の基本的な考え方でお示ししたとおり、特に目的を持たない人でも気軽に立ち寄り、通り抜けができるような開かれた施設づくりを目指しますとともに、交流イベントロビーや屋外広場などを設けまして、誰もが気軽に集い、憩うことのできる施設整備を目指してまいりたいと考えております。

次に、7ページ、10番のご意見でございます。

こちらは、施設整備費用が約350億円ということについての懸念のお声でございます。このほかに同様のご意見が2件ございました。

こちらにつきましては、音楽ホールは長年にわたりまして市民の皆様からご要望いただいている施設でありますとともに、市内の文化施設は老朽化が進んでいること、それからこれまで本市が培ってきた文化芸術面の蓄積や、未来に向けた都市文化の創造といった観点からも、整備が必要な施設であると考えております。需要面につきましても、県と市でそれぞれ2,000席規模のホールを整備しても十分な需要があることを確認しておりまして、今後、整備費の精査や財源確保に努めるとともに、多くの人に多様な価値を提供し、市民の皆様にとって必要とされる施設を目指してまいりたいと考えているところでございます。

それから、43ページ、47番のご意見でございます。

こちらのご意見は、音楽ホールに期待するご意見でございます。一流のオーケストラがこのホールで演奏したいと思えるようなものとしてほしい。そうしたプランを掲げ、全国、そして世界のインバウンドを狙うべきではないかというご意見でございます。続く49番のご意見も同様のご意見でございました。

こちらにつきましては、基本構想におきましても、大ホールは国内外から高い評価を獲得できるホールを目指すことを明記しておりまして、高いクオリティーのある本格的な実演芸術作品の上演はもちろん、市民の皆様にもご利用いただくことで、本市の文化芸術面のさらなる発展と、さらには交流人口・関係人口の拡大につなげていきたいと考えているところでございます。

それから、46ページ、51番のご意見でございます。

こちらのご意見は、施設完成後の運用面に関するご意見ですが、今回の施設がホールとメモリアルについてそれぞれ別々に運用されて、一部事業で連携するというように見

えるが、それでよいかというご意見でございます。

こちらにつきましては、音楽ホールも中心部震災メモリアル拠点もそれぞれ固有の事業がございますので、まずはそれらを十分に果たしつつ、効果的な連携や協働事業ができるよう、今後の管理運営体制のあり方について検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

次に、中心部震災メモリアル拠点についてでございます。

18ページをご覧ください。

27番のご意見ですけれども、ご自身のお子さんやお孫さんが笑顔で安心して暮らし続けていけるような、次世代につながる施設としてほしいといったご意見でございます。

次に、21ページです。

31番ですけれども、施設の完成、震災から20年が経過した後となりますので、そこで再び震災について市民が考える契機としてほしい。そこまでの地道な活動を望む、施設は、技術革新等に対応したフレキシブルな造りとしてはどうかというご意見を頂戴してございます。

次に、52ページをご覧ください。

こちらで、②メモリアル機能についてのご意見がございすけれども、中心部拠点では、沿岸部だけではなく、平野部や丘陵部等、仙台市内の様々な場所にいた方が体験した震災の記録を丁寧に紹介し、たどれる施設となってほしいといったご意見を多数頂戴しているところでございます。いただいたご意見を踏まえまして、今後のあり方について引き続き検討してまいりたいと考えてございます。

次に、意見の概要といたしまして、戦災復興記念館に関するものがございました。代表例といたしまして、39ページをご覧ください。

42番では、戦災復興記念館の存続を望む。その次、43番では、戦災復興記念館が本複合施設に統合されると聞いたなど、戦災復興記念館の廃止や、保存・展示機能の存続について懸念されるご意見を多くいただいたところでございます。

この点について説明させていただきますが、令和2年度に本市が行いました市内ホール施設の体系整理がございす。この整理におきまして、戦災復興記念館については、保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討することを前提とした上で、施設の更新を行わない検討を進めることが望ましいとしたものでございました。前回お示した中間案では、この保存・展示機能の検討に関する記載がございせんでしたことから、本機能の廃止について危惧されるお声が多く寄せられたものと考えてございます。この点、本文該当箇所について修正を行っておりますので、後ほどご説明をいたします。また、複合施設との関係性につきましては、今後の連携の可能性について検討を進めてまいりたいと考えてございます。

資料3-1、3-2についての説明は以上でございます。

引き続き、資料4についてご説明申し上げます。

資料4-1につきましては、概要版となりますので、ここでの説明は割愛させていただきます。

資料4-2、最終案本文にお進みください。

中間案からの主な変更点につきまして、本資料に基づきご説明をいたします。

なお、変更箇所は赤字でお示しをしております。

まず、10ページ目をお開きください。

目指す施設像①の変更箇所については、こちらの文章整理、②の変更箇所については、蓄積された文化を発展させ、新たな創造につなげる旨の項目の追加に関するご意見に対応したものでございます。

おめくりいただきまして、11ページ目でございます。

中心部メモリアル拠点の部分で、他の箇所との表現の統一等に関するご意見に対応した修正を行っております。

○事務局（佐々木青葉山エリア複合施設整備室長）

それでは、12ページをご覧ください。

こちらの修正は、前回の懇話会で、実演芸術と舞台芸術には本来違いがないのではないかというご意見を受けて修正をしたものでございます。舞台芸術は、広い意味で実演芸術全般を指す言葉ですけれども、今回の基本構想では、舞踊や演劇などの視覚的要素の強い実演芸術を指す言葉として使用していることを明記いたしました。

次に、24ページでございます。

こちらは、中間案の時点では「舞台監督」という表現を用いておりましたけれども、前回の懇話会で、少し意味合いが違うのではないかというご指摘を受けまして、「技術監督」という表現に改めさせていただいているところでございます。

次に、25ページでございます。

こちらにも、前回の懇話会で、「企画」と「制作」を分けたほうがよいのではないかと、「制作」の中にコーディネートなどが入ってくるのが一般的ではないかというご指摘を受けまして、記載のとおり修正したところでございます。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

次に、28ページをご覧ください。

まず、アーカイブ及びアーキビストに関する記述について、ご意見を踏まえ所要の修正を行っております。

また、取組例のところ、先ほどの戦災復興記念館の保存・展示機能との連携の可能性に関する記述を追加しております。

30ページにお進みください。

こちらの概念図のサイズダウンを行いつつ、記述につきましても事業概要との統一を図るとともに、この「実装」の部分に「災害時に実践する」の項目を追加しております。

33ページでございます。

創造・実装分野に、市民が行う研究活動への支援の役割を明記いたしました。

35ページにお進みください。

必要なエリアの中の⑤運営エリアについてでございます。中間案におきましては「運営・協働エリア」としておりましたが、パブリックコメントにおいて、市民協働を行う

エリアかというご質問をいただきました。当エリアは管理運営に係る諸室等を想定したものでございますことから、シンプルに「運営エリア」といたしまして、ほかの箇所も同様に修正をしております。

○事務局（佐々木青葉山エリア複合施設整備室長）

次に、39ページでございます。

音楽ホールの楽屋の部分でございます。中間案では「防音性」という言葉を使っておりましたけれども、パブリックコメントにおいて、室内の響きが重要とのご意見を受けまして、外部への音漏れを防ぐという趣旨で記載をしておりましたので、「遮音」という言葉に改めさせていただきます。以下、小ホールなどにつきましても同様の趣旨で修正をしております。

また、40、41ページのリハーサル室についてですけれども、こちらには主たる用途として考えている内容を記載しておりましたことから、「主として」という言葉を追記させていただきます。

次に、47ページでございます。

こちらの修正は、パブリックコメントにおきまして、PFI方式以外でも性能発注方式とすることが可能ではないかのご意見がございまして、これを受けまして記載のとおり修正をしたものでございます。

次に、50ページでございます。

こちらは、前回の懇話会で、今回の複合施設が私の施設だという感覚で、それぞれのお気持ちに沿って、様々な形で支えてもらうという要素を入れたほうが良いのではないかというご指摘を受けまして、記載のとおり修正をしたところでございます。

○事務局（田中震災メモリアル事業担当課長）

51ページをご覧ください。

外部資金の獲得に関しまして、中間案では「セールス活動」という表現を用いておりましたが、ご意見を踏まえ、「広報活動」へと修正をいたしました。

52ページでございます。

3、周辺との関係についての項目でございますけれども、重要度を鑑みまして、周辺施設との連携や回遊性向上についての項目の順番を（2）へとご意見を踏まえ繰上げをいたしました。

53ページをご覧ください。

（3）国際センター駅との関係について、2点、委員からご意見をいただいております。そちらの反映をしております。まず、1つ目の丸ですが、当駅について、エリアの核となる重要な施設である旨を明記しております。次に、3つ目の丸についてですけれども、地下鉄を通じて沿線にある各施設とつながる、こちらは単にハコとハコ同士の周遊にとどまらず、空間を超えて、各施設で展開される文化的活動をつないでいくという積極的な連携を図ってまいりたいという趣旨で記載を追加してございます。

次に、56ページでございます。

連携対象となる施設に広がりを持たせるべきというご意見を踏まえまして、「博物館

等」の文言を追加いたしました。

最後になります。66ページにお進みください。

先ほど資料3-2においてご説明申し上げましたホール体系の整理について、詳細な解説を加筆いたしました。あわせて、戦災復興記念館の保存・展示機能に関する検討についても追記をしております。

資料3及び資料4についてのご説明は以上でございます。

○郡市長

ただいまご説明を申し上げましたけれども、この最終案全体についてのご意見あるいはご感想など、そしてまた、今後の整備に向けた進め方についてのご助言なども含めまして、ぜひ委員の皆様方からご発言をいただきたいと思っております。挙手をしていただきまして、その挙手の順番で私のほうから指名をさせていただこうと思っております。

それでは、本杉先生、よろしくお願いいたします。

○本杉委員

3つほど申し上げたいと思っております。1つは、アンケートを取られて、若い世代への周知がまだなっていないということ、それはやっぱり大事なことなので、ぜひそれは進めてほしいなど。

これまでもシンポジウムをやってきたりしていましたが、また、私のほうでも、コンクールなどでこういう広報活動をしたほうが良いのではないかなどと申し上げましたが、さらに学校の文化活動団体とか、クラブ活動をしている人たち、あるいはまちの中で活動している、教室とかの活動をしていらっしゃる方たちのところへ、ぜひこちらから進んでいって、こういうことを考えているんだというのを届けてほしいなどと思っております。恐らく新聞とかテレビとか、若い人たちは読まないし、やはり違った、スマホで手軽に見られるような広報へと転換していく必要があるのかなと思っております。そこで一旦広がると、かなり展開が進んでいくんじゃないかなと思っておりますので、それはぜひ考えてほしいなどと思っております。

それから、もう一点は、スケジュール。10年ぐらいかかるということですが、一番最初に佐藤委員が、なるべく早くつくってくれ、命があるうちにつくってくれというお話をされておりました。やっぱり10年もたつと、大きく様変わりということもあるので、早期実現に向けて、短くできるところは短く、できるだけスムーズに進めていってほしいなどというふうに思っております。

それに関連する3つ目は、10年ぐらいたつと、いろんな活動も変わってくるんじゃないかなと。今、我々がこうやって、基本構想を組み立てて来ましたが、ほとんどはそのまま生かされるものと思っておりますが、中にはやっぱり変わっていく活動もあるだろうし、また、活動によっては求められる質とか機能というものも変化していくのかなというふうに思っております。ですから、この基本構想を大切にしながらも柔軟な姿勢で取り組んでいってほしいなどというふうに思っております。

○郡市長

ありがとうございました。

それでは、広報のあり方について、局長から説明をさせていただきます。

○事務局（金子文化観光局長）

若い方への広報という1番目のことについて補足の説明をさせていただきます。

本ご紹介いたしましたアンケートの中で、まさに年齢の若い方から上の方まで、きれいに一直線で「知っている」という回答が上がっているという結果が出ておりますが、このアンケート全体、まだ詳細ちょっと分析途中なものですから今日お示しできませんでしたが、同じアンケートのほかの設問の中で、今後活動してみたい、文化活動などをしてみたいジャンルは何でしょうかという問合せをしたところ、10代の方は、クラシック音楽をやってみたい、これが1番でした。それから、20代の方では、クラシック音楽と美術、この2つが同率1位でございました。実は30代以降ではクラシック音楽はトップではないんですね。

ということもあり、実は若い方はクラシックをやってみたいという情熱はむしろお持ちだということも分かりましたので、広報を工夫すれば、ここはかなりの方が活動に参加していただけるんじゃないかなと思っております。先ほど先生からお話ありましたとおり、スマホなども考えながら取り組んでいきたいと思っております。

○本杉委員

よろしく申し上げます。

○郡市長

本杉先生からは、広報のあり方についてと、スケジュールについて、そしてまた、基本構想そのものについては、守るべきところと、それから時代の流れの中で柔軟に対応していかなくちゃいけないところがあるんだという、その意識を持ってほしいというご意見を賜りました。

まさにこれから先10年、どのような流れになっているのかということも踏まえながら今後進めてまいりたいと思っております。

では、本江委員、お願いいたします。

○本江委員

幾つか、半分感想めいたことと、今日最終回ということですので、基本構想の取りまとめに向けて思うところを申し上げたいと思っております。

最初、枕として話をすると、ついこの間、陸前高田に学生を連れて行ってまいりまして、市の博物館が最近オープンをしています。海辺にあって津波で被災をして、収蔵品が流れ出てしまっていて大変な被害があったところなんです。学芸員の方にも犠牲があつて、それでも、収蔵品を集めて、洗って、洗うのにも日本中の博物館のネットワークがサポートをして、修復して、展示するという、まさに災害文化を博物館のレベルで実施しておられて、かつその再建プロセス自体が展示の一つの大きな目玉になっていて、大変に面白い、面白いと言うのは大変だったことを思うと表現が微妙ですが、非常に興味深い、

未来につながる活動をされているなどというので大変印象が深く残りました。ああしたのも間違いなく災害文化ということでありましょうし、ガッツを出して再建に取り組むということももちろんそうだし、それをみんなでサポートしていくという形、ああしたことが博物館の活動を支えているというところ、大変に感動的な展示でありました。

もう一個、この博物館の建築のことで申し上げますと、大きな屋根の一番高いところが2つに分かれている形になっていて、そこに屋上のテラスがあるんです。1階の展示を一通り見て回って、その後屋上に展望テラスとあるので、いろいろな仕掛けがあるものと思って上がるんですが、上がると何にもないんです。エレベーターホールから屋上へでると、どんと真っすぐな細長いスペースがあって、それが真っすぐに海のほうを向いている。同じ設計者の国の追悼施設がありますけれども、あれを含めた松原であったところが一望できる。博物館は、かさ上げしたところの突端にありますので。何にもないんですが、下でにぎやかな展示を見た後だけに、息をのむ何にもなさというか。

その屋上がどんと抜けていて、その先に、整備はやったけれども、空いている、まだ耕作されていない農地だった場所が広がっており、その先にも、松原があったけれども今はまだないところが大きく見えていて、復興が成りました、博物館も再建されましたというある種のにぎやかさと、まだまだですという現実を同時に突きつけられるような非常に強力な空間ができていて、大変に印象深く行ってきたところでした。

それはある種の、ここで我々が挙げているクワイエットスペースというか、何かたくさんの方が情報が提供されることによってある種の満足感をもたらされるということとはちょっと違う、何もなさに直面するような、そうした場所でした。あれをそのままつくるということではもちろんないんですけれども、何か一つのああいう場所を持つということには、震災に関わる施設としては意味があるんじゃないかなと思ったということで、これは最近あったことだったので、感想まで。

具体的に中身のことについて申し上げます。事前に資料をお送りいただきおりましたので読みましたが、特にパブリックコメント、僕も幾つか委員をやらせていただくことがあります、こんなに熱の籠もったパブリックコメントがこのボリュームで来るということはめったにないことで、かつまた一つ一つ非常に濃密な内容が描かれており、具体的に今日の基本構想を書き換えておくようなことというよりは、これから次のプロセスに向かって気をつけていかなきゃいけないことがたくさん書かれていたと思ひまして、幾つか気になったところを控えてまいりましたので、そこを申し上げつつ、これはもちろん僕も同感だということですので、本江の意見と併せて聞いていただければと思ひました。

例えば、18ページ、28番のご意見をいただいているんですが、これは荒浜小学校の卒業生の方で、震災当時、小学生だったということなんですけれども、実際に荒浜小学校でのいろいろな活動に関わっておられる方で、幾つかのことをおっしゃっていただいているんですが、例えば、既存の施設、メモリアル交流館とか荒浜小学校そのものが十分に役割を果たし得たのかと。そのことについての検証があってこの新しい中心部拠点をやっているのかということをお聞かせいただいています。もちろんやっているというふうに答えるんだと思ひますけれども、改めて企画の具体化のプロセスの中で、時間もありますし、既存施設との関係を見直すというかな、再確認するということは必要だなと思ひ次第

です。

それから、荒浜小学校で毎年3月11日に風船を飛ばしたり音楽会をやったりしていらっしゃる。特に音楽会の音楽の演奏をやっておられるということを言及しておられて、そのことに触れられていないではないかということが指摘をされています。もちろんこのことはみんな知っているの、知りませんでしたということではないのだと思いますけれども、あえて申し上げれば、これに限らずありとあらゆることが仙台市民の手によって行われていますので、そうした取組みのことをちゃんとすくって、この方がそうおっしゃっているわけではないけれども、何か手柄を横取りするようなことになってはいけなくて、市民の方がやっておられることを、ちゃんと役に立つ形で、市が支えるような形で、災害文化を育てていくということをやらなくちゃいけないなということに改めて思ったところです。

それから、荒浜小学校でお勤めの方の待遇が十分でない。それでは伝承活動をしていくにしても十分にやっていかれないではないかということもご指摘をされていて、こういう災害関連のことだと、どうしてもボランティアとかプロボノとかに頼りがちですけれども、でも市が市としてきちんと活動していくというふうにするからには、そして施設を整備して事業を行うからには、そうした善意に頼り切るのではなくて、簡単に言えば待遇もきちんとして、人が大事だということは繰り返し言ってきておりますが、そこをサポートする仕組みをきちんと示すということが必要ですし、もう一言おっしゃっている、私たちや下の世代、私たちとおっしゃっているのは30代だということですがけれども、より若い世代をきちんと登用して、その方々が関われるような計画にしていけないといけないというようなことが読み取られるご意見だったかと思えます。

大変重要なことをごく近いところで話しておられて、率直に言えば、ある種の不信があるのだと思えます。12年の間、十分なことを必ずしも市はやってくれなかったではないかと思っていられる方がいるのも事実だと思えますので、そうしたことをきちんと受け止めて、こうした活動の中で、新しい活動の中にきちんと協働していけるような形を改めてつくるということを市には約束していただきたいと思えます。

それから、例えば、26ページの35番のご意見の方も、直接的に今までの市の活動に関わって、複数の自治体に関わってきた、近いところで似た活動をされてこられた方ですけれども、面白いことを言っておられて、2つ言いますが、1つは、荒井駅にあるメモリアル交流館で、これ、僕自身が直接設計に関わっているの、我が事でもありますけれども、あそこの2階、広くはないけれども、常設展の年表があって、同じひとつながりの空間に小さいけれども企画展示室がある。企画展示室をつくるというのはもともとプログラムになかったんです。漠然と展示室となっていたんだけれども、大きくはないけれども企画展示室というスペースをつくって、企画展示室があるからには企画を立てなければならなくて、継続的に企画して、展示すべき展覧会を掘り起こして、やり続けますよということが、つまり空間を用意することで宣言されている。企画展示室がなかったら、一回つくって次の見直し10年後までそのままみたいになっていたかもしれないけれども、企画展示室を置くことでやるしかなくなったというか、そういう言い方ではないけれども、そういう趣旨のことが書かれています。

これから基本構想が基本計画になって具体的な建築になっていくと、我々が格調高く

理念でうたっていることが空間化されていくわけですがけれども、空間にすることで、言い訳ができなくなるというか、やるしかなくなるというか、そういうことが実際、我々建築をやっている者としてはあり得ると思っていますので、この理念が空間化されるということをきちんと踏まえてつくっていくことが大事だということをおっしゃってくださっているなと思います。これから次のステージの基本計画で、この理念を実際の空間の面積や部屋の並び方に読み替えていくときに、この理念がちゃんと形になっていくのか、次の活動を促していくものになっているのかということをつくり込んでいく必要があるなということでございます。

それから、同じ方、もう一点で、音楽ホールと中心部メモリアルの両機能の連携・協働をやると書いているが、組織表を見ると、その両機能の連携を行う人というのが組織表に明示されていなくて、結局これ誰もやらないんじゃないかと危惧されている。あるいは館長同士が、1人なのか2人館長なのかまだ決まっていませんけれども、そのトップの仕事ですと言っちゃうとやっぱり迫力がないだろうということなので、さっき理念が空間化されるという話を申し上げましたけれども、理念は組織化されるので、その組織表に両機能を連携する人というのを明示して、ちゃんと連携が仕事である人を置くということが必要だというご指摘だと思います。それは全くそのとおりだと思いますので、これから理念が具体化されていくときに気をつけなきゃいけないことの幾つかをご指摘いただいたかと思います。

ということで、ほかにもなるほどと思うことがたくさんありますので、折に触れてパブリックコメントを読み直しながら、この皆様のご意見に応えたものになっているかということを気にしながら、基本計画を取りまとめていただければというふうに思いました。

○郡市長

ありがとうございました。

本当に多くの皆様方から熱の籠もったパブリックコメントをいただくことができました。大変ありがたく思っているところです。

今、本江委員からもご指摘いただきましたけれども、理念をどのように空間に生かしていくのか、そしてそれを組織的にどういうふうに支えていくのかということが重要だというその視点、まさに重要なところだと思っております。

では、垣内先生、お願いします。

○垣内委員

今回で最終回ということで、最終案について事前に資料を読ませていただきました。委員の先生方だけではなくて、多くの市民の方々、パブリックコメント、先ほどご紹介がありましたけれども、非常に多くのコメントがあり、また、幾つもの熱の籠もった、期待の籠もったコメントを頂戴して、しかもそれを丁寧にこの基本構想の中に事務局の方が落とし込んでいただいて、基本構想としてはかなり踏み込んだ、また、理念的な部分も含めて、はっきり市民の方に姿を見せるような形になったんじゃないかなというふうに感じております。

その上で幾つかコメントさせていただきたいと思いますが、まずご紹介いただきました意識調査の結果です。音楽ホール、複合施設の事業について知っている人がちょっと少ないというのは残念なところではありますが、いろいろな調査をしましても、やっぱり10代、20代の方って忙しくて、世の中全体の動きを捕捉するということができにくいというのは、他の事例でもよくあることだと思います。逆に、50代以上の方々が半数以上ご存じだという点は、市民の方がしっかりフォローされているんじゃないかなと思ったところです。

私に関心を持ったところは、新しい音楽ホールに期待すること、「気軽に訪れることができる施設」が多いことです。このことはこの構想の中に何度も何度も盛り込んでいて、市民の方のご意見に沿うような形での基本構想になったんだということを改めて感じたところです。

一方、ちょっと気になるのは、その次に多い、2人に1人が指摘されたのは「質の高い作品の鑑賞」ということで、気軽というのはどういうことか、また、質が高いというのはどういうことか、この点について2点ほどコメントさせていただきたいと思います。

この意識調査、今回資料として出されていない部分もネットで拝見いたしましたけれども、例えば、コンサートとか美術展、音楽フェスティバルなどの文化芸術イベントを会場に出向いて直接鑑賞するというために、特に望ましいことは何かというご質問がありまして、2人に1人が「手頃な料金」、その次が「身近な場所」とおっしゃっているんですね。だから、気軽というのは、ニアリーイコール手頃な料金で、身近に訪れることができるということなのかなと。

一方で、クオリティーが高いと言ったときに、どうしてもクオリティーというのはお金に直結します。クラシックの、仙台フィルもそうかもしれませんけれども、オーケストラの方、特に楽団長の方は、オーケストラの音はお金の音だという、そういうことをおっしゃることもあります。確かに楽器も非常に高額ですし、かつ様々な投資もしないとスキルが身につかないということもあって、やはりお金はどうしてもかかる。また、人を育てるということも必要になるわけですね。この2点、お金と人についてちょっとコメントさせていただきます。

この複合施設、非常に立派な、将来世代に誇れるような、世界にも誇れるような施設ということですので、やはり非常に大きなお金がかかる。これはパブリックコメントでもいただいているご意見でもあります。事業費、それはもう一時的に非常に大きなお金がかかるわけですが、そのほかに毎年の維持管理費がかかってきます。人が集まる施設ですから事故があってははいけませんし、不具合があってもいけないということもございますので、維持管理費は必ず一定程度必要です。さらに、クオリティーが高く、先ほど言ったような、いろんな意味で気軽に触れ合うことができるような事業を展開するということだと、事業費もさらに必要となりますね。

パブリックコメントにもありましたが、チケット代金を高額に設定するということは、多分この施設では通らない。この施設ではそういうことをしないで、できるだけ良いものを、できるだけ市民の方に手頃に、気楽に気軽に触れていただく、そういうことを考えるべきものじゃないかというふうに思います。それによって、仙台市に住んでいることのメリット、誇り、ほかの地域から来た方にもご紹介するといったようなところにも

つながっていく。この施設の存在価値が高まっていくだろうと思いますので、そこはぜひきちんとご配慮いただきたいというふうに思っています。

そして、このコストですが、基本構想の中にも一部記載がありますけれども、行政だけがカバーすべき、負担すべきものでもない。行政も一定程度の負担は必要でしょうけれども、関心を持つ方、そして市民のサポーターの方々、必ずいらっしゃると思うんですね。そういった方々の様々な支援をうまくこの施設の活動に結びつけていただきたいなど非常に強く思っております。そのこともこの構想の中に盛り込んでいただきましたが、今後、具体化していく中では、ぜひさらに踏み込んだ形で検討していただければなと思います。

2点目は人です。先ほど本杉先生もおっしゃいましたけれども、あと10年ということで、長いようですが、人を育てるという観点からいうとそんなに長くはない。というか、今からやれば間に合うというぐらいのタイムスパンかなというふうに思います。人を育てると言うときに、よくいろんな施設が世界的に著名な方を外から呼んでくるということをするんですけども、むしろ、これだけの時間と、そして仙台の文化力があるわけですから、地元の文化団体とか地域の専門家、NPO、実践家、様々な方々をぜひ巻き込んで、この人たちのスキルアップをして、開館に結びつけていくというようなことを今からやっていただきたいと思います。そうしたら間に合うと思います。

あと、最後にちょっと付け足しですけども、実は情報元、情報の発信の仕方についてですが、私たちもいろんな調査をしておりますが、年代ではっきり分かります。50代以上は紙媒体、30代、40代がホームページとツイッターで、10代、20代がSNSで、しかも10代は、T i k T o kとか様々な媒体を使いこなすということで、なかなか一律に市が情報をいろいろな媒体を使ってやるというのは難しい状況だと思います。逆に、SNSが典型的な例ですが、情報の受け手がさらに発信していく、ツイートするとかリツイートするとかいうような形で拡散していく、この機能が非常に重要だと思います。なので、興味関心のある若い方々をインフルエンサーとしてぜひ協力していただくというようなことをするというご検討いただければと思います。

コトラーは、これからは情報拡散の時代だと、マーケティングも変わるんだというようなことも言っていますけれども、まさにそういうことはあると思います。

例えば先行事業をうまく梃子にを使って、それに関心のある、まさにクラシックをやってみたいと思われるような若い世代を巻き込んで、彼らが発信できるようにする。最近写真撮影オーケーというような舞台も多くて、それを自分のサイトに上げる、それをまた拡散していくというようなこともあります。著作権との関係もありますけれども、様々な情報を様々な方々が発信できるような、そういう仕組みをぜひ考えていただきたいというふうに思います。

○郡市長

どうもありがとうございました。

「気軽に」と「質の高い」について言及いただいて、確かにそのとおりだなと思いましたが、なるべく努力をしていかなくちゃいけないのだろうなというふうには思います。兵庫の芸文ではワンコインコンサートを行っておられて、それも多くのファン

を引きつけている要因にもなっているのだと私も認識をしております。そういうような取組みもあるのだろうなと思いつつ聞かせていただいたところです。

それと、発信についても、それぞれの年代にどのように訴求するのか、そしてまた、それをこちらで利用するのかというような、そういうことについても大変良いご指摘もいただいたと思います。ありがとうございました。

人づくりというのは、一生懸命に頑張っていかなきゃいけないところではありますけれども、この開館までの10年、それこそいろんな思いを結集しながら取り組ませていただくというふうに思っているところでもございました。

これから具体的に進めるに当たって、プレとなる事業についても言及いただきまして、大変ありがたく思ったところです。

それでは、川内委員、お願いいたします。

○川内委員

今回、最終案ということで、我々委員の意見や市民の方のパブリックコメントも含めて、大変たくさんいろんな意見があるものをこのようにまとめていただいたということにつきまして、特に事務局の皆様のご苦勞に敬意を表したいと思います。そういう意味では、大変良い案ができたなというふうに思いますので、読んで少し考えたことについて3点ほどお話をさせていただきたいと思います。

1点目は、最終案53ページですね。国際センター駅との関係のところ、特に3番目の丸ですね。これは前回の委員会で私のほうから出させていただいた意見を反映していただいたということで、このようにご修正いただいたと思うんですけども、「地下鉄を『施設と施設をつなぐ』存在と捉え」というところで、先ほど事務局の方からのご説明で、単にこれは施設をつなぐという話ではないんだと、文化活動をつなぐということで、こういう表現にされているということですので、そのお話を伺って大変納得をしまして、前回の委員会で私は、国際センターと荒井と、こういうメモリアルをつなぐというふうに言ったんですけども、確かにこの施設は、メモリアルだけではなくて、仙台市の文化全体の創造発信拠点になるところで、そういう意味でいうと、南北線にある青年文化センターとか、いろいろそういう施設もつなぐ、まさにそういうつながりの中にこの施設ができるんだということが意識されるという意味で、大変捉え方としてよくなったというんですかね、明確になったかなと。

そういう意味で言いますと、今後この施設ができるまでは事前事業というのが行われていくでしょうし、施設ができてからの事業も含めて、鉄道がつなぐ、地下鉄がつなぐ、この地下鉄というのは仙台市が運営している市営地下鉄ですから、何か単に地下鉄が通っていますよ、それがつないでいますよというのではなくて、このできる施設と地下鉄の何か相乗効果が発揮できるような事業なり取組みなんか今後併せて考えていければ良いのかなということを思いました。というのが細かい点、1点目です。

あとは、この施設が開館まで10年ぐらいかかるということで、市民のご意見の中にも、長いなというようなお話もありましたが、先ほどの本江先生の陸前高田の博物館で言いますと、陸前高田は、ご承知のとおり、市街部が津波で壊滅的被害を受けて、その後、ハードの復興事業の中で、ハードの復興ってほぼ完了している中で、最近開館した

この博物館というのは、最後のハード復興になったんですね。

何で博物館が最後になったかと言いますと、ご承知のとおり、博物館って中に文化財等の収蔵を行って展示を行う施設ですので、できたからそのまま文化財入れれば良いという話ではなくて、1年か2年、空調かけっ放しで、よく新築の建物とか、臭いとかあると思うんですけども、ああいう物質等を排出する「枯らし」というプロセスが必要。だから、結局できたまま、あれは多分1年ぐらい放置した上で今回やっと開館したと。

何が言いたいかと言いますと、確かに震災20年というタイミングで開館するという、このスケジュールはスケジュールで良いと思うんです。早くできることはしたほうが良いかもしれないんですけども、あまり急ぎ過ぎないということも大事なのかなと。

今、垣内先生がおっしゃったような、人を育てるであるとか、あと市民の、メモリアルでいうと、既に行われている、活動されている方々と一緒になって、今後のこの施設での将来像というんですかね、そういうことを考えるような、そういうことをしながら開館を迎えるところまで持っていくことになると思いますので、スケジュールありきで中のソフトの部分を考えるのではなくて、建物としてはできても、その後、市民の皆さんからのご意見ありましたけれども、フレキシブルに中身を変化できるようなものとしてやっていただきたいというご意見もありましたが、開館までに全部つくり上げなきゃいけないんだということではなくて、そこは丁寧に物事を進めていく、急ぎ過ぎないということも必要かなと。

博物館が文化財を収蔵するための施設として必要な1年や2年の空白というのがあるのと同時に、この施設も、ある部分ではスケジュールで進めなきゃいけない部分もあれば、ある程度時間をかけなきゃいけない部分というのもあると思いますので、そこは少し市のほうでも、急ぐところは急ぐ、急がないところは急がない、何かそういう姿勢で今後取り組んでいただければなということがあります。

それと、3点目ですが、少し今回のパブリックコメントで目立ったということで事務局のほうからご説明いただいた震災復興記念館の話ですね。これは直接この施設と関わらない、この施設ができるからといって、震災に関わる展示等がなくなるということではないということは、この基本構想にもちゃんと明記をしたということでしたけれども、これだけご意見をいただいているということは、市民の方もいるでしょうし、もしかしたら市外の方からもこういう意見を頂戴しているんじゃないかなと思うんですけども、仙台が今行っている震災の記憶の継承というものにも、一定程度期待があると、もうこれから戦後80年が経過しようとしているところですけども、まだあると。

ちょうど前回の懇話会的时候には、市長がウクライナの訪問団の方々をご案内された日だったと思うんですけども、震災の記憶というのは、直接戦争を体験された方というのは恐らく市民の中でも本当に少数派になっているんでしょうけれども、やっぱりこれを引き継いでいかなきゃいけないという市民なり日本国民の思いというのはまだまだ消え去っていないということを表しているのかなと思います。

そういう震災の記憶というものを、この施設ができるからといって、後景に退くよという姿勢ではないということはこの構想ではっきり示して、さらに今回新たに追加ということで、28ページに、戦禍と災害を乗り越えてきた仙台の歴史を知る講座ということが盛り込まれたというのは、これは大変歓迎したいと思うんですが、これからこの施

設、特にメモリアルの機能というところに注目して言いますと、やはり私たち自身が過去の仙台の記憶の積み重ねを大切にできなければ、この私たちが経験した震災という経験が、これは未来になると私たちの今の経験は過去になっていくと思うんですけども、これを未来の市民が大切にしてくれないという可能性もあると思うんです。

だから、我々自身が過去の蓄積を大切にするという、その姿勢をちゃんと持つておく必要があると思いますし、その創造発信拠点、災害文化という中に恐らくは、この基本構想で最初のほうに書いていますけれども、「数々の災害を乗り越え生きてきた人々の営みをはじめ、先人たちの文化芸術活動の足跡など、様々な『過去』にまなざしを向け、今を生きる人の糧とし、それをより良い『未来』づくりに生かしていくことのできる」、そういう施設にしたいという構想を最初に述べているわけですが、この施設に限らず、この施設で創造発信していく災害文化というのは、まさにそういう文化になってほしいなど。そのためには、今後、この施設とは直接関わらないですけども、ここで掲げているような戦災の資料なり展示の保存ということについては、今後ぜひ市のほうで積極的に取り組んでいただきたいなということ、一応、歴史家の端くれとしては感じるところでした。

○郡市長

ありがとうございます。

最後の戦災の記憶なり伝承ということについて、まちづくり政策局長からお話しさせていただきます。

○事務局（梅内まちづくり政策局長）

戦災復興記念館について多くご意見をいただきました。

仙台市の戦災復興記念館には270席の小ホールがございまして、今回の音楽ホールの整備の中でも小ホールを整備していきますので、その部分について一部記載したところがあったんですが、それが戦災復興記念館の展示部分と言いますか、戦争の歴史を後世に残す部分についても更新をやめるのかというようなちょっと誤解があったので、多くご意見をいただいたものと理解しておりまして、今回、記載を追加する方向で、ご意見も踏まえて修正をしたところでございます。

戦災についても残していかなければいけないというのはそのとおりでございまして、この施設自体でやるかどうかというのは、今、戦災復興記念館があって、その施設の更新の手法等についても内部等で別途検討していきたいと思っております。

この施設についても、先ほど来お話ありましたように、メモリアル部分も、ソフトの部分でいうと、デジタルをうまく使ってということが、変化をちゃんとフレキシブルにできるようにということがございました。恐らく音楽とか芸術のほうについても、響きの良いホールをきちっと残すことは、当然、生音をやっていく上で不可欠なんですけれども、配信ライブが増えているとか、そういったようなソフトの部分で、いろいろ対応していかなければいけないところがあると思います。それはメモリアルにしても音楽、芸術のホールにしても、その部分のフレキシビリティを持たなきゃいけないというのはそのとおりで、後世に伝えていくという意味では、震災、災害、戦災、そういったこ

とをきちっと踏まえて、それを乗り越えて今の仙台市があつて、これからもそういうものとどういふふうに関存しながら未来の仙台をつくっていくかというのが災害文化の本質だと思っておりますので、そういったことを表象するホールとして、また、そのホールを所有する仙台市全体として、戦災の記憶あるいは今回の震災、楽都としての歩みとか、そういったものを踏まえて、どういふものをつくっていくかというのをこのホールの中で表していければなと思っております。

○郡市長

もう一つ、川内委員は、急ぎ過ぎなくてもよいのではないかというご指摘もございました。一方で、佐藤委員は一刻も早くということをおっしゃってもいたわけですが、まさにそれ両方あるのだろうなというふうに思います。早く整備をした上でも、やはり育てていかなくちゃいけない、余裕を持って、文化芸術あるいは災害文化の創造という点においても、市民の皆様方とゆっくりゆっくり育てていくという、そういうアプローチというのも大切だというふうに私もお話を聞かせていただいて認識をしたところでございまして、これから先についても、いろいろ相談に乗っていただければというふうにも思うところです。

では、遠藤委員、お願いいたします。

○遠藤委員

資料をおまとめいただきありがとうございます。

大変多くの市民意見、私もとても重く拝見させていただいて、これは構想へのご意見であると同時に、この10年間の準備期間への提案でもあり、かつオープンしてから、への提案でもあり、ある意味リスクマネジメント的な要素も入っていると思いますので、本当に重く受け止めさせていただきました。

そういった中で、ちょっと私からは3点ほどお話ししたいです。前の委員の方がおっしゃったことも含まれますけれども、ご了承いただけたらと思います。

1つ目が、できるまで10年ということで、事前からの人と事業と研究をやはりこつこつと少し実際に始めていくということの重要性ですね。コロナの状況が変わりまして、私も防災ですとか復興の勉強会や催しですとか、あと懇親会も増えてきまして、やっぱり顔を合わせて話すことの大切さですとか伝わりやすさ、そして懇親会なんかをやりながら、ざっくばらんにお互いを知り合うことで、いざというときに、すぐ手伝ったり助けたりできるんですよね。震災のときの教訓の中の一つに、普段からできていないことは、いざというときもできないという教訓がありますので、普段から知り合っていたほうが、いざというときの実行する力とか、効果的にやる力というのが高いので、できてからというのではなくて、事前にこの人、事業、研究を進めておく。

特にメモリアル関連の場合ですと、無くなってしまうものも多いですし、こういった災害の記憶ということも、一面では薄れていくことも良い部分もあったり、でも、仙台市民の命と暮らしと財産を守っていくという意味では、忘れちゃいけないということはずっと喚起し続けなくちゃいけない。ですから、今のうちから、ぜひ人、事業、研究ということを少し目安を立てながら実施していただけたらなということをもた改めて強く

感じました。

2つ目が、とはいえ、震災後、いろんな事業や取組みを市役所の皆さんや大学や、市民の皆さんや団体の皆さんがされてきて、いろんな蓄積があると思います。それが場合によっては、今回、災害文化の創造ということで、創造拠点ということで言語化して、より進めようということになったわけですので、今までの取組みや、今後必要となるんじゃないかとか、あとちょっとここが心配だというようなことの再整理が必要なのかなと思ったんですね。いろんな役割分担もあるでしょうし、以前、川内委員とお話ししていたときも、震災資料には、例えばブロック塀でも何か止まった時計でも、そういったものを積極的に保存するのかもしれないのかみたいなことも、この災害文化の創造拠点、創造していくといったときに、今後10年、30年、50年、100年と伝えていく中で、じゃあどういうふうはその資料のこと、担う組織のこと、それぞれの組織に積み上げられた資料のこと、それを相互に利用できる仕組みをどうするかとか、これはまさにオープンしなくても考えていけることですので、再整理と再整備みたいなことが、本当に眠ったままにしないで、保存、整理、活用のところまで見据えてやっていく必要があるんじゃないかなというふうに思いました。

あと、3つ目は、今お話ししたことともつながるんですけども、災害文化の創造ということで、前段の中心部メモリアル拠点の頃から、そして今回の懇話会でずっと皆さんと議論してきましたけれども、市民の皆さんにとっては災害文化ということはまだまだ耳なじみのない言葉だと思うんですね。災害時避難するときの物資をどう揃えるかとか、自分の命に、家族の命に関わることが第一にご準備されていると思うんですけども、こういった中で、災害文化ということをいろんな市民の方、あとは企業とか団体とか、いろんな方々と一緒にもっと深めていく場というのが必要なんじゃないかと思うんですね。

先日もオンラインのトークイベントをやったんですけども、そのときに私は「文化や文学と被災者」というテーマを担当しました。まさに被災された方が、自分が楽しんでいたというか、慣れ親しんでいた小説ですとか短歌を読むことで、今までどこにも表現できなかったものが表現できるようになって、本当に精神的な心からの解放や発散になったというようにお話をされている方もいらっしゃって。ですから、目の前の命を守るといふことと、この災害文化に関わるいろんなテーマが実は私たちの生活にはとても関わっているなど。そういったことを気軽に、この施設が誰でも訪れられるということですので、気軽に皆さんでお話ししながら深め合って、それぞれがつながり合っているということを感じました。さらにそこからまた研究とかツール開発とかに進むのかもしれないんですけども、そういった災害文化を深める機会づくりですとか、場合によっては、災害文化を定着させる、定着したら仙台はこうなるんじゃないかとか、何かそういったビジョンまではいかないですけども、災害文化が仙台にもうすっかり根づいて、いろんな海外の方が仙台に災害文化の実際の実装のありようを見に来るみたいな、そのとき、じゃ仙台はどうなっているのかなみたいなことをみんなでイメージして語り合ったり、そういったことも育んでいく必要があるのかなというふうに思いました。

もっともっと市民一人一人の皆さんにも災害文化、企業の皆さんにも災害文化ということを考えながら実践する機会をつくっていく10年、そして開館後にちょっとしてい

ただけると良いかなと思いました。

○郡市長

ありがとうございます。

確かに災害文化という言葉が、どの程度、皆様方の理解が進んでいるのかということは、まだまだなのかもしれませんが、今おっしゃられたように、ハード面での防災や減災と併せて、心の再生というのでしょうか、心の復興、こういうようなことについても、何が元気を、乗り越えていく力を私たちに与えてくれるのかということを含めて、やはりこのオープンまでの間、いろいろなことを準備しながら、皆さんが災害文化といえはこういうことよねと分かっていただけのように努力を続けなくちゃいけないなというふうに思っております。

一巡、委員の皆様方にお話をさせていただきましたけれども、それぞれのお話をお聞きになった上で、さらに付け加えてという方がおられれば、またお話しいただけるとありがたいと思うのですが、いかがでしょうか。

では、垣内委員、お願いいたします。

○垣内委員

スケジュールについてです。10年、余裕を持って計画されていらっしゃるのだとは思いますが、聞くとところによると既存の施設はかなり老朽化しているようです。一般に、文化芸術で地方自治体が力を入れているのは、やっぱりインフラ整備としてのホールやミュージアムなどの建設と維持管理、そしてそれを市民の方々に使っていただくという部分で、その役割は非常に大きいということを痛感しております。

なので、仙台の文化芸術に関わる方々も、佐藤先生もそうですけれども、多分、もう一刻も早く欲しいというところがおありになるんじゃないかと。佐藤先生のお気持ちを代弁させていただきまして、非常に重要な機能でございますので、それは一朝一夕にできるものではないというのはよく分かっておりますが、前倒しできるところはしていただき、そして仙台の文化政策の基礎になるインフラ整備だというふうにご理解いただければ、音楽ホールに関心を持つほうとしてはすごくありがたいというふうに思っておりますので、ちょっと個人的な感想を最後に言わせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

○郡市長

ありがとうございます。

どうでしょうか、たくさんお話をお聞きすることができました。これからのアプローチに向けても、とても良い最終の懇話会だったのではないかと思うところです。

時間も迫ってまいりますので、それでは意見交換につきましてはこのあたりで終了ということにさせていただこうと思います。本日いただきました議論を踏まえて、近日中に基本構想を策定いたしまして、市民の皆様方に公表をさせていただくことといたしますので、本当にありがとうございました。

さて、今日が最後の懇話会ですので、私も一言、立ちながらご挨拶をさせていただ

うかと思えます。

昨年の9月に第1回の懇話会が始まりましてから、大変お忙しい皆様方に、1年近くにわたって高い専門的な知見からいろんな有意義なお話をいただくことができまして、深く感謝を申し上げる次第でございます。

お話いろいろありましたが、音楽ホールは文化芸術の総合拠点として、そしてまた、中心部震災メモリアル拠点というのは、防災環境都市・仙台、そしてあの大きな震災を経て、災害を乗り越える力、災害文化の創造拠点として、それぞれ役割が違ってはいるものの、それを果たしつつ、仙台ならではの強みと魅力というのを相乗的に発信できる、それこそ類を見ない施設として本市に整備をしまいたい、そのような思いで、この間いろいろ進めてまいりましたけれども、委員の皆様方に大変すばらしいご意見を頂戴することができまして、最終の基本構想を取りまとめることができます。本当にうれしく思うところでございます。

本当に皆様方には、オンラインを使ってのお話もございましたし、今日は残念ながら5人の先生方にとということでもございましたけれども、また事務局でもいろいろと意見を聞かせていただきながら、最終稿をまとめてまいりたいと思えます。

改めてですけれども、今後、基本計画、設計、そしてまた、施設が行います事業の具体的な検討などについても鋭意努めてまいります。整備のプロセス、着実に進めてまいりますので、これからも折に触れアドバイスいただけますようお願い申し上げたくも存じます。

1年間本当にありがとうございました。感謝申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○司会

改めまして、皆様方、大変ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第6回国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会を終了いたします。

どうもありがとうございました。

了